

平成 29 年 度

大分大学大学院医学系研究科

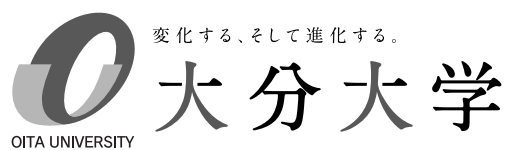
修 士 課 程

学 生 募 集 要 項

医 科 学 専 攻

看 護 学 専 攻

平成28年 5 月



目 次

| | |
|--|----|
| ○ 大分大学大学院医学系研究科アドミッション・ポリシー | 1 |
| ○ 大分大学大学院医学系研究科修士課程ディプロマ・ポリシー （学位授与の方針） | 3 |
| 【医科学専攻】 | |
| 1. 入試日程 | 6 |
| 2. 募集人員 | 6 |
| 3. 出願資格 | 6 |
| 4. 出願資格認定 | 7 |
| 5. 出願手続 | 8 |
| 6. 出願上の注意事項 | 9 |
| 7. 個人情報の取扱い | 9 |
| 8. 受験票の交付 | 10 |
| 9. 入学者選抜方法 | 10 |
| 10. 長期履修制度について | 10 |
| 11. 社会人への特例措置 | 11 |
| 12. 入学案内 | 11 |
| 13. 医科学専攻 授業科目の講義等の概要及び担当教員 | 12 |
| 14. 医科学専攻 授業科目及び単位数 | 21 |
| 15. 医科学専攻 授業時間割概要 | 21 |
| 16. 医科学専攻 指導教員（教授等）の連絡先一覧 | 22 |
| 【看護学専攻】 | |
| 1. 入試日程 | 26 |
| 2. 募集人員 | 26 |
| 3. 募集する専攻コース | 26 |
| 4. 出願資格 | 26 |
| 5. 出願資格認定 | 27 |
| 6. 出願手続 | 27 |
| 7. 出願上の注意事項 | 29 |
| 8. 個人情報の取扱い | 29 |
| 9. 受験票の交付 | 29 |
| 10. 入学者選抜方法 | 29 |
| 11. 修了後の取得資格について | 30 |
| 12. 長期履修制度について | 30 |
| 13. 社会人への特例措置（昼夜開講制） | 30 |
| 14. がん専門看護師の資格取得を希望する者の履修について | 31 |
| 15. 入学案内 | 31 |
| 16. 看護学専攻 授業科目の講義等の概要及び担当教員 | 32 |
| 17. 看護学専攻 履修方法及び概略図 | 39 |
| 18. 看護学専攻 指導教員（教授等）の連絡先一覧 | 41 |
| 【共通事項】 | |
| 1. 障がいのある者等の事前相談について | 44 |
| 2. 合格者発表 | 44 |
| 3. 入学手続 | 44 |
| 4. 修了の要件 | 44 |
| 5. 学位の授与 | 44 |
| 6. 入学料及び授業料 | 44 |
| 7. 奨学金制度 | 45 |
| 8. 大分大学入学料・授業料奨学融資制度 | 45 |
| 9. 学生教育研究災害傷害保険制度 | 45 |
| 10. 問い合わせ先 | 45 |
| 11. 大分大学位置図 | 46 |

大分大学大学院医学系研究科アドミッション・ポリシー

基本理念

複雑化・高度化する医学・医療の分野で、常に最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない倫理観と、それを支える豊かな教養を身につけた教育・研究者及び医療人を養成し、もって医学及び看護学の進歩、国民の健康の維持増進、更に医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に寄与することが基本理念です。

教育の目標

修士課程

優れた指導力を持った教育・研究者、医療人及び技術者を育成するため、理論的・実践的教育を通じて、医学・医療の諸問題に対処できる判断力と問題解決能力の涵養を図ります。

(医科学専攻)

体系的・集中的な教育により、医学以外の専門知識を備えた人材に、それぞれの専門分野と融合した新たな医学に関わる教育・研究分野や技術を創出できる研究者の養成を目指します。

(看護学専攻)

社会や保健・医療・福祉の変化を見据え、看護の質向上を実現できる実践力を養い、看護実践・看護管理・看護教育の場でリーダーシップを発揮できる高度専門職業人の養成を目指します。

博士課程

(略)

求める学生像

修士課程

(医科学専攻)

- 1 医学の基本的知識や研究手法を理解・吸収し、各自の専門分野の研究や技術に応用することにより新しい発想の研究や技術開発を志す人
- 2 近年の医学・医療を取り巻く環境を理解し、全ての人々が健康で幸福な生活を享受できる社会の実現を目指し、新たな視点で保健、医療、福祉等の問題解決への取り組みを志す人
- 3 医学と各自の専門分野との融合を図り、健康増進に関連する産業界の活性化への貢献を志す人
- 4 豊かな人間性や指導力を持った教育・研究者として自立し、博士課程への進学を志す人

(看護学専攻)

- 1 看護実践及び看護管理に関する高度な専門知識及び技術の習得を志す人
- 2 保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職として主体的行動ができ、優れた指導力を発揮する能力を培うことを志す人
- 3 看護の理論と実践に関する豊富な知識と高度な技術を習得し、優れた教育活動の実施を志す人

- 4 看護理論の検証や看護技術の開発・検証を行い、実践に応用することを志す人
- 5 複雑かつ多様な健康問題について、柔軟に対応することができ、学術的・国際的に活躍することを志す人

博士課程

(略)

入学者選抜方針

修士課程

(医科学専攻)

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、医学以外の学部出身者を対象に、近年急速な進歩により著しい発展を遂げた医学・医療の分野を多様な観点から捉え直す能力を求めます。そのため、各自の多様な専門分野と医学の分野との融合に関して明確な目的意識と基礎的知識及び柔軟な発想を求めます。

(看護学専攻)

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、昼夜開講制を導入して看護職経験者を積極的に受け入れます。こうした志願者を含め看護学の更なる探求心と倫理観豊かな医療人としての素養を求めます。

博士課程

(略)

大分大学大学院医学系研究科修士課程 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

【医科学専攻】

大分大学大学院医学系研究科の修士課程を修了し、研究者として自立して活動しつつ高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を身につけ、以下の基準に該当する者に修士（医科学）を授与する。

1. 医学以外の専門知識を基盤に、医学の基本的知識やその研究手法を修得し、新しい発想での研究や技術開発などを実践できる。
2. すべての人々が健康で幸福な生活を享受できる社会を実現するため、医学と各自の専門分野との融合と発展を図れる。
3. 高度の専門的職業人あるいは研究者としての専門的知識及び研究姿勢が身についている。

【看護学専攻】

大分大学大学院医学系研究科の修士課程を修了し、高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を身につけ、以下の基準に該当する者に修士（看護学）を授与する。

1. 看護実践・看護管理・看護教育の分野において自主的に研究課題を立て、その課題の探究に必要な基礎的研究能力を形成することができる。
2. 専門領域の理論と実践に関する豊富な知識と高度な技術を習得し、幅広い視野からの柔軟な問題対応に必要な態度を身につけることができる。
3. 保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職として主体的行動ができ、コーディネーターとして問題解決の調整に優れた能力を発揮することができる。
4. 地域社会の健康問題の解決に看護職として率先して取り組み、多様化・国際化した看護活動の必要性をふまえ、看護支援方法の研究・開発を展開し、学術的な成果として社会に還元することができる。

医 科 学 専 攻

平成29年度医科学専攻学生募集要項

1. 入試日程

| 区 分 | 第1次募集 | 第2次募集 | 第3次募集 |
|-------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 出願期間 | 平成28年7月11日（月） ～平成28年7月15日（金） | 平成28年9月16日（金） ～平成28年9月23日（金） | 平成29年2月13日（月） ～平成29年2月17日（金） |
| 試験日 | 平成28年7月26日（火） | 平成28年10月13日（木） | 平成29年3月7日（火） |
| 合格者発表 | 平成28年8月9日（火） | 平成28年11月4日（金） | 平成29年3月20日（月） |

※募集人員に達した場合は、以後の募集は行いません。

※第2次募集、第3次募集を行う場合は、大分大学ホームページでお知らせします。

2. 募集人員

医科学専攻 15名

3. 出願資格

次のいずれかに該当する者（平成29年3月末までに出願資格に該当する見込みの者も可）

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- (6) 大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めたもの
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 本学大学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したものと及び平成29年3月末日までに22歳に達するもの

4. 出願資格認定

出願資格(6), (8)のいずれかにより出願しようとする者については、事前に出願資格の審査を受け、出願資格を有することが認定された者のみ出願することができますので、関係書類を次により提出してください。（出願資格認定を希望する者は、事前に志望する指導教員に相談してください。）

(1) 出願資格(6)により出願しようとする場合（提出された書類は返還しません。）

| 提出書類 | 摘 要 |
|----------------|---|
| ① 出願資格認定申請書 | 本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。 |
| ② 受験の動機 | |
| ③ 最終学歴に関する証明書等 | 卒業（修了）証明書、成績証明書 日本語及び英語以外の証明書は、日本語訳又は英語訳を添付してください。（短期大学又は高等専門学校の専攻科を卒業（修了）した者は、短期大学又は高等専門学校の卒業（修了）証明書、成績証明書を併せて提出してください。） ※改姓により、現在の氏名と証明書の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。 |
| ④ その他の資料 | 科目等履修生等の成績証明書 |

(2) 出願資格(8)により出願しようとする場合（次の認定基準を満たしている場合に限ります。）

① 認定基準

医療系短期大学又は専修学校専門課程（修業年限4年未満）の卒業者で、次の各号全てに該当するもの

ア 卒業時に取得できる資格を有し、4年制大学卒業に不足する年数以上の実務経験もしくはそれに準ずる実務・研修経験があること。

イ 研究テーマを持ち、意欲的に学ぶ姿勢があること。

② 提出書類（提出された書類は返還しません。）

| 提出書類 | 摘 要 |
|----------------|---|
| ① 出願資格認定申請書 | 本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。 |
| ② 受験の動機 | |
| ③ 最終学歴に関する証明書等 | 卒業（修了）証明書、成績証明書 日本語及び英語以外の証明書は、日本語訳又は英語訳を添付してください。（短期大学又は高等専門学校の専攻科を卒業（修了）した者は、短期大学又は高等専門学校の卒業（修了）証明書、成績証明書を併せて提出してください。） ※改姓により、現在の氏名と証明書の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。 |
| ④ その他の資料 | 科目等履修生等の成績証明書、医学・医療に関する研究会やセミナー等に参加したことを確認できるもの等。 |
| ⑤ 業績一覧 | 本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。（主な業績のコピーを各1部添付してください。ただし、提出する業績は3篇までとします。） |
| ⑥ 研究計画書 | 本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。 |


(3) 提出期間 第1次募集 平成28年6月20日（月）～6月24日（金）17時まで（必着）
第2次募集 平成28年8月17日（水）～8月19日（金）17時まで（必着）
第3次募集 平成29年1月16日（月）～1月20日（金）17時まで（必着）

- (4) 提出方法 郵送に限ります。
「速達簡易書留」郵便で、封筒の表に「出願資格認定申請書在中」と朱書きし、郵送してください。
- (5) 提出先 大分大学学生支援部入試課（旦野原キャンパス）
- (6) 認定の結果 認定の結果は、下記期日までに本人に通知します。
第1次募集 平成28年7月6日（水）
第2次募集 平成28年9月6日（火）
第3次募集 平成29年2月8日（水）

5. 出願手続

- (1) 出願期間 第1次募集 平成28年7月11日（月）～7月15日（金）17時まで（必着）
第2次募集 平成28年9月16日（金）～9月23日（金）17時まで（必着）
第3次募集 平成29年2月13日（月）～2月17日（金）17時まで（必着）
- (2) 出願方法
- ① 第2志望まで出願することができます。
 - ② 出願を希望する者は、**出願する前に志望する指導教員（P.22～P.23に掲載されている指導教員の連絡先一覧を参照）と必ず連絡を取り、直接面談か電話又は電子メールの方法により進学希望等について、十分相談の上で出願してください。**なお、第2志望まで出願する者は、第2志望の指導教員にも必ず事前に連絡を取ってください。
（教員の研究内容については、大分大学ホームページ（<http://www.oita-u.ac.jp/>）をご参照ください。）
 - ③ 出願書類等は、持参又は郵送により提出してください。
 - ④ 願書受付場所 大分大学学生支援部入試課（旦野原キャンパス）
 - ⑤ 受付時間 9時から17時まで
 - ⑥ 郵送の場合 「速達簡易書留」郵便で下記あてに郵送してください。
（あて先）〒870-1192 大分市大字旦野原700番地
大分大学学生支援部入試課
- (3) 出願書類等（提出された書類は返還しません。）

| 出 願 書 類 等 | 摘 要 |
|---|---|
| ① 入 学 志 願 書 | 本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。 |
| ② 受 験 票 ・ 写 真 票 | |
| ③ 入 学 検 定 料 振 替 払 込 受 付 証 明 書 等 (30,000円) | <p>①②のいずれかの方法でお支払いください。</p> <p>①金融機関（郵便局を含む）でお支払いの場合 本学所定の振込用紙を用い、必ず窓口でお支払いください（ATM不可）。 お支払い後は「振替払込受付証明書（大学提出用）」を受験票下の貼付欄に貼ってください。</p> <p>②コンビニエンスストア（一部）でお支払いの場合 下記URLから申し込み、受付番号を入手後コンビニエンスストアでお支払いください。 お支払い後は、「収納証明書（コンビニエンスストアによっては領収書）」を受験票下の貼付欄に貼ってください。</p> <p>・パソコンからの本学ホームページ（http://www.oita-u.ac.jp/） <input type="button" value="メニュー"/> → <input type="button" value="入試情報"/> → <input type="button" value="入学検定料のコンビニ収納"/> から申し込んでください。</p> |

| | |
|---------------------------------|--|
| | <p>・携帯電話からの申込みURL (https://www.oita-u.net/mobile/) ※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは、アクセスできないことがあります。 ※手数料は本人負担です。 ※納入した検定料は返還できません。 ※国費外国人留学生については、納付する必要はありません。</p>  |
| ④ 受験の動機 | 本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。) |
| ⑤ 成績証明書 | 出身学校等の長が証明したもの。 |
| ⑥ 卒業(見込)証明書 又は修了(見込)証明書 | 日本語及び英語以外の証明書は、日本語訳又は英語訳を添付してください。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。) |
| ⑦ 学位授与証明書 又は学位授与申請書 受理証明書 | 出願資格(2)に該当する者は、大学評価・学位授与機構が証明した学位授与証明書又は学位授与申請書受理証明書を提出してください。 |
| ⑧ 住民票の写し (外国人志願者のみ) | 日本に在住する外国人は、市・区・町・村長の発行した「住民票の写し」 (在留資格が記載されたもの)を提出してください。なお、入学志願書等には、この住民票の写しに記載された氏名を記入してください。 |
| ⑨ 受験及び就学承諾書 (有職者のみ) | <u>入学後も在職のまま就学しようとする者</u> (本要項P.10・11参照)は、出願に際して本要項に添付している本学所定の用紙により、所属機関長の受験及び就学承諾書を提出してください。また、提出にあたっては、 事前に指導教員と相談 してください。 |
| ⑩ 出願資格認定通知書(写) | 本学の出願資格審査を受け、出願資格ありと認定された者は、出願資格認定通知書のコピーを提出してください。 |
| ⑪ 住所シール | 本要項に添付している住所シールに志願者の郵便番号・住所(合格通知等を受け取る場所)・氏名を必ず記入してください。 |
| ⑫ 受験票等送付用封筒 | 本要項に添付している本学所定の長形3号の封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し、郵便切手(362円分)を貼ってください。 |

6. 出願上の注意事項

- (1) 入学志願書の記入漏れ等がないように十分留意してください。
- (2) 改姓により、現在の氏名と各提出書類の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。
- (3) 一度受理した出願書類等及び入学検定料は、いかなる理由があっても返還しません。
- (4) 出願期間後に到着したものと及び出願書類等の不備なものは受付できません。
- (5) 出願書類等は一括してとりそろえ、志願者が直接出願してください。
- (6) 出願書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

7. 個人情報の取扱い

志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシー」に基づき、入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学科・授業料免除(猶予)及び奨学金を申請した場合には、選考資料として利用します。

8. 受験票の交付

受験票は、出願書類受理後、本人に郵送により交付します。

なお、試験前日までに受験票が到着しないとき、又は受験票を紛失したときは、出願時に提出したものと同一の写真を1枚持参の上、試験当日の9時30分から10時までに受付へ申し出てください。

9. 入学者選抜方法

(1) 学力検査等

小論文、口述試験及び成績証明書により行います。

(2) 試験期日及び学力検査科目

| 期 | 日 | 科目名等 | 時 間 |
|-------|----------------|------|---------------|
| 第1次募集 | 平成28年7月26日(火) | 小論文 | 10時30分～12時00分 |
| 第2次募集 | 平成28年10月13日(木) | | |
| 第3次募集 | 平成29年3月7日(火) | 口述試験 | 13時00分～ |

※試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内に試験室へ到着した場合に限り、受験を認めます。

(3) 試験会場

大分大学医学部 はさま 挾間キャンパス

所在地 由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地 (P.46大分大学位置図参照)

交通アクセス ◎バス利用 (大分バス)

大分バス本社前 [トキハデパート前] 2番のりば又はJR大分駅府内中央口 (北口) 大分駅前4番のりばから「大学病院」行きを利用
「大学病院」下車 (所要時間約40分)

10. 長期履修制度について

この制度では、標準修業年限を超えて計画的に授業科目を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修制度を利用できる対象者は、有職者及び正規の履修期間内で修学が困難な事情がある者 (家事、育児及び介護など) です。

この制度の利用は原則として入学時の申請により認められます。また、修学状況等の変動により、申請した修業年限を短縮することも可能です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、下記の「授業料の納入例」を参照して下さい。

また、入学後履修期間を延長する場合、授業料総額に追加的費用が発生します。

なお、申請方法等については後日合格通知書等でお知らせします。

【授業料の納入例】 (年度により変更がないと仮定した場合)

標準修業年限 (2年)

| | | |
|-------------------|-------------------|------------|
| 1年次 (535,800円) | 2年次 (535,800円) | 1,071,600円 |
|-------------------|-------------------|------------|

ア 入学時に申請し、3年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

| | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1年目 (357,200円) | 2年目 (357,200円) | 3年目 (357,200円) |
|-------------------|-------------------|-------------------|

$1,071,600円 \div 3年 = 357,200円$

イ 入学時に申請し、4年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

| | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1年目 (267,900円) | 2年目 (267,900円) | 3年目 (267,900円) | 4年目 (267,900円) |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|

1,071,600円 ÷ 4年 = 267,900円

11. 社会人への特例措置

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっていますが、通常の方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されることになります。

このことを踏まえ、本学修士課程医科学専攻では、平成20年度より社会人が更なる探求の機会を取得できるように、社会人に配慮して、夜間に授業を開講することで履修・修学しやすい環境を整備しています。(P.21参照)

12. 入学案内

1) 大分大学大学院医学系研究科の理念

最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない道徳観と、それを支える豊かな教養を身につけた医療人及び研究者を育成し、もって医学及び看護学の進歩、国民健康の維持増進、さらに医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に貢献する。

また、「患者本位の最良の医療」を基本理念とし、高度先進医療の開発と提供及び倫理観豊かな医療人の育成により地域社会の医療・福祉の向上に貢献する。

2) 大学院医学系研究科修士課程の教育目標

医療全般にわたって広い視野と高い見識を持ち、優れた指導力を持った教育者、研究者及び国際社会に貢献できる人材を育成する。

3) 大学院医学系研究科修士課程医科学専攻の教育目標

医療人として以下の資質を備えた人材を育成する。

- ① 医学の基本的知識や研究手法を理解、吸収し、各自の専門領域の研究や技術に応用し、新しい発想の研究や技術開発に貢献する人材
- ② 近年の医学・医療を取りまく状況を理解し、地域の全ての住民が健康で幸福な生活を享受できるように、新たな視点で保健、医療、福祉等の問題解決に貢献する人材
- ③ 医学と各自の専門領域の融合を図り、健康増進に関連する産業界の活性化に貢献する人材
- ④ 豊かな人間性や指導力をもった教育・研究者として自立し、医学系研究科博士課程等への進学を目指す人材

4) 修業年限

2年を標準とします。

5) 学生定員

| | | |
|-------|------|------|
| 定員 | 入学定員 | 収容定員 |
| 専攻 | | |
| 医科学専攻 | 15 | 30 |

13. 医科学専攻 授業科目の講義等の概要及び担当教員（平成28年度）

| 授業科目名 | 講義等の概要 | 担当教員 |
|----------|--|-----------------------------------|
| 基礎生命科学概論 | <p>生命科学の知識の習得は医科学研究に必須であり、大学院生が自学自習することが基本である。本授業は生命科学の基本的項目を解説し、かつ各項目の相互関係の理解を促進することで、各自の細部にわたる具体的な事柄までの学習が容易になるように補助することを目的としている。</p> | ◎花田 俊勝 |
| 人体形態学 | <p>(概要) 人体の構造の階層性（細胞，組織，器官，器官系，個体）とそれぞれの階層の示す形態的および機能的特徴について概説する。加えて，人体の発生過程について概説する。</p> <p>(内容) 1. 肉眼レベルにおける器官・器官系の基本構造と機能について概説する（肉眼解剖学）。 2. 人体の発生過程（形態形成機序）について，個体発生と系統発生の両面から概説する（人体発生学）。 3. 顕微鏡レベルにおける細胞，組織の基本構造と機能について概説する。さらに，光学顕微鏡および電子顕微鏡を用いた細胞，組織観察の理論と実際について概説する（組織学）。</p> | ◎濱田 文彦 藤倉 義久 伊奈 啓輔 三浦 真弘 |
| 人体機能学 | <p>(概要) 人体機能学（生理学）は生命現象を物理化学的基礎と方法に基づいて究明する学問である。したがって，一般生理学について広い観点から生物に共通する現象や法則性を学ぶ。さらに一般生理学の基礎に立って人体生理学を概説する。</p> <p>1. 植物的機能の生理 (担当：小野) 本講義では循環や呼吸等，生体の自律活動と関係の深い植物機能全般について学ぶ。具体的には，まず細胞の一般的機能を学び，次に各論的に，血液循環，消化器，内分泌，腎・体液，呼吸機能等へと理解を深め，さらに種々の病態を理解できる応用力を養う。</p> <p>2. 動物的機能の生理 (担当：花田) 本講義では，感覚や情報処理等，外界への働きかけに関係の深い動物機能全般について学ぶ。具体的には，感覚機能，高次神経機構，運動制御等について学習する。</p> <p>3. 病態生理学 (担当：小野) 人体機能学（生理学）は生命現象のメカニズムを研究する学問であり，科学的手法を用いて機能面を重視する。その学習のためには種々の基礎的知識や技術を生かし，生命現象に内在する法則性を見出すことで，さらに総合的な生命現象を論じることが肝要である。</p> | ◎小野 克重 花田 礼子 |

| 授業科目名 | 講義等の概要 | 担当教員 |
|--------|---|-------------------------|
| 分子医科学 | <p>生物を構成するタンパク質，糖質，脂質等の物質の構造，性質，機能及びそれらの合成，分解，相互作用や調節について講義を行う。また，それに関連した病態について講義を行う。</p> | ◎吉岡 秀克 |
| 病理・病態学 | <p>(概要)</p> <p>病気の本質，原因，異常状態の進展，病的過程における構造及び機能の変化について教示し，病態の機構を習得させる。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(横山)</p> <p>腫瘍と変性・代謝障害の病理</p> <p>(守山)</p> <p>「炎症」「循環障害」の病理病態について講義する。</p> | ◎横山 繁生 守山 正胤 |
| 社会医学 | <p>1. 疫学研究の方法論を知り、疾患解明や予防に疫学の適用できることを学ぶ。また、疫学を応用して、医学研究を展開することの重要性や健康情報の信頼性を評価できる判断力を培う。さらに、生活習慣病の概念と主な疾患について学び、その発生のリスク要因について理解を深めるようにする。</p> <p>2. 法医学は、法律上問題となる医学的事項を研究し、これに解決を与える社会医学である。</p> <p>最近、親子鑑定を必要とする民事事件が増加しており、血液型とDNA多型分析による親子鑑定・個人識別を例にとって、人類遺伝学の基本に触れ、分子生物学的解析法についても理解を深めることを目標とする。</p> | ◎岸田 哲子 兼板 佳孝 井谷 修 |
| 環境生命科学 | <p>胃癌の原因であるヘリコバクター・ピロリ感染症の疫学ならびに病原因子を理解することにより、環境による発癌機序および予防医学の本質を理解・修得する。また発癌に寄与する病原体側の遺伝子の多様性、宿主側の遺伝子の変化や修復機構を学習する。ピロリの遺伝子系統解析による人類移動の解明についても講義する。</p> <p>また公衆衛生学全般についても理解を深めるようにする。</p> | ◎山岡 吉生 |

| 授業科目名 | 講義等の概要 | 担当教員 |
|---------|---|---|
| 臨床医学概論 | <p>1. これからの高齢化社会に最も必要な内科領域の疾病にかかわる症候学，診断学，治療学の基礎知識の習得及び疾病の原因，病態，予防等に関する基礎知識の習得を目的とする。 (担当：門田)</p> <p>2. 産科婦人科における基礎・臨床的領域に関する総論的講義を行い，それらの基礎知識を習得させる。 (担当：榎原)</p> <p>3. 外科手術は病める患者の病態を正確に把握し，手術という人為的外傷を与えることで治療行為を行う有用な治療手段である。病態に応じてどのような手術が必要か？生体は，この人為的外傷に対してどのような反応を生じ動的平衡を維持するのか？手術に伴う合併症はどのようなものがあるか？本講義では外科手術を必要とする病態や手術方法，生体に与える影響など，外科手術に関する基礎知識の習得を目的とする。 (担当：猪股)</p> <p>4. 受胎，成長，発達の視点に立ち，新生児期から思春期への過程に起こる生命体＝ヒトのダイナミックな生体変化を理解する。その中で発生する疾患の病態を学習し，未解明の疾患の病態・病因解明に向けた医学研究への展開を議論する。 (担当：井原)</p> | <p>◎門田 淳一 榎原 久司 猪股 雅史 井原 健二</p> |
| 生命倫理学 | <p>医療におけるインフォームドコンセントのあり方，臨床研究・臨床試験・新薬の治療における論理と倫理，臓器移植，再生医療，遺伝子治療，ヒトゲノム・遺伝子解析等の近年急激に発展してきた現代医療の技術進歩に伴い，新たに生じてきた生命倫理的諸問題に焦点を当てる。また，西欧文化とは異なる日本文化の中でのインフォームドコンセントについて，ロールプレイ法やディベート法を採用した学習も行う。</p> | <p>◎今井 浩光 上村 尚人</p> |
| 医科学演習 | <p>(概要) 指導教員の所属するセミナー等に参加し，最新の技術や知見に触れさせ，研究の思考過程を理解させるとともに，研究に必要な種々の方法論を習得させる。</p> | <p>教員全員</p> |
| 医科学特別研究 | <p>(概要) 教員の指導のもとに，研究テーマを設定し，情報収集・実験計画立案により実験を行い，修士論文を作成させる。</p> | <p>教員全員</p> |

| 授業科目名 | 講 義 等 の 概 要 | 担当教員 |
|---------|--|---|
| 基礎生体科学 | <p>主に生命科学系以外の学部から入学した学生を対象として、生命科学系出身者との格差を是正し生命科学を基礎とした高度の医科学を学ぶのに必要な基礎知識を習得させる。細胞の基本的性質、酵素の生体触媒としての基本的構造と機能など、生命活動を支える機構の全般的な生体科学を習得させる。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(松浦) 細胞や遺伝子の構造と働き、脳と神経、ガンなどの基礎的生体反応や疾患について理解させる。</p> <p>(池田) 個体発生と進化の仕組みを学ばせる。</p> <p>(下田) ポリペプチドとしての酵素の立体構造と機能の関係について学ばせる。</p> <p>(久保田) 酵素の精製、分類及び酵素の活性部位について理解させる。</p> <p>(谷川) 酵素などの生体分子の反応速度について理解させる。</p> | <p>◎久保田直治 谷川 雅人 松浦 恵子 下田 恵 池田八果穂</p> |
| 人体形態学実習 | <p>系統解剖や病理解剖を見学させ、人体構造と機能の詳細を学ぶと共に、疾病による形態の変化をマクロ・ミクロの両面から習得させる。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(濱田・藤倉)</p> <p>第1回目：小動物を用いた解剖 ラット、マウスの解剖を行い、その構造を学習する。</p> <p>第2回目：解剖見学実習 解剖体を観察することにより、人体の基本構造を学習する。</p> <p>第3回目：組織学実習（総論） 細胞とは、上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織</p> <p>第4回目：組織学実習（各論） 中空性臓器（食道、胃、小腸、大腸など）と実質性臓器（肺、肝臓、腎臓、膵臓等）</p> <p>(岸田) 末梢血を用いて学生自身のDNA型（STR）を調べ、個人識別の原理を学ぶ。</p> <p>(横山)</p> <p>1. 病理解剖や手術材料を用いて、疾病の肉眼的変化を理解させる。</p> <p>2. 病理解剖、手術、生検材料を用いて、疾病の組織学的変化を理解させる。免疫組織化学的、分子生物学的診断法を習得させる。</p> | <p>◎岸田 哲子 濱田 文彦 藤倉 義久 横山 繁生 伊奈 啓輔 三浦 真弘</p> |

| 授業科目名 | 講 義 等 の 概 要 | 担当教員 |
|----------|---|--|
| 基礎生命科学実習 | <p>(小野) 細胞の電気生理学的評価を行う為、単一培養細胞の細胞内電位の測定の実際とその解析原理を学ぶ。また、イオンチャネルの分子構造と機能連関を生物物理学的解析法で解釈する方法論を学習する。実習にはパッチクランプ法の原理を理解した後、実際に膜電流の測定法と基本的解析手順を学ぶ。更に、活動電位と細胞外電位測定法の習得、並びに筋細胞の興奮収縮連関の成り立ちを筋収縮張力実習を通して学習する。</p> <p>(西園) 感染性微生物が示す生物現象を通して、生物の構造単位である細胞を理解するようにする。微生物を扱うことで今後の研究に必要な基礎的手技として細菌、ウイルスの取り扱い、組織培養法、生物の構造単位である細胞を構成する蛋白質、脂質、核酸等の機能・性状を学び生命現象の理解・習得に努める。そのため生きた細胞(細菌)、ウイルスを実際に扱い、これを用いた以後の実験のための試料の作成をとおして基本的な細胞の性質とその取り扱い方法を学ぶ。</p> <p>(花田) 蛋白質は酵素、ホルモン、情報の受容体、生体構造の保持物質などとして生体内で様々な役割を演じている。このような多様な役割を担っている蛋白質の生体内での正確な生化学的或いは生理的意義を研究するためには、高純度の蛋白質を精製して用いることが重要である。本実習では、硫酸沈殿、ゲル濾過、イオン交換カラムを用いて、血球より、ヘモグロビンを精製し、SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動(SDS-PAGE)により解析を行う。</p> <p>(吉岡) 組換えDNA技術が開発されるまでは、DNAは生化学領域で最も困難な物質であった。しかし、現在ではDNAは細胞の巨大分子の中で最も分析しやすい物質になっている。それを可能にしたのは、1) DNA関連酵素の発見(制限酵素、DNAリガーゼ、DNAポリメラーゼ等)、2) 特定のヌクレオチド配列の検出法(サザンブロット法)の開発、3) 簡便な塩基配列決定法(サンガー法)の開発であった。本実習ではこれらの基本技術について、実習を通じてその原理を理解し、その習得を目指す。</p> | <p>◎吉岡 秀克 小野 克重 西園 晃 花田 俊勝 伊波 英克</p> |
| 免疫学特論 | <p>免疫学総論として、免疫の歴史や概念、免疫担当臓器と免疫担当細胞やその働きについて理解させる。また、自然免疫と特異的免疫との関係、特異的免疫応答における抗原認識とリンパ球の活性化、さらには免疫グロブリンと細胞性免疫について理解させる。これら免疫反応における主要組織適合遺伝子、サイトカインと細胞接着分子、補体の役割についても理解させる。その上で、免疫に関連した臨床研究の具体例につき提示し、研究の参考になればと考える。</p> | <p>◎鈴木 正志 渡邊 哲生 平野 隆 児玉 悟</p> |

| 授業科目名 | 講義等の概要 | 担当教員 |
|--------|--|----------------------------------|
| 感染防御医学 | <p>感染生物の特徴とそれが引き起こす疾患について講義する。同時に感染症の発生とその防御の仕組みについて習得させる。(オムニバス方式)</p> <p>(西園)</p> <p>医学領域で扱う感染症の原因となる微生物学を修得するためには、微生物自身が示す生物現象そのものを理解する生物学的な側面と、「感染」という現象から種々の病態を引き起こす「感染症」の原因を理解する医学微生物学としての側面がある。医科学修士課程においては、細菌、ウイルス、真菌などそれぞれに異なった微生物固有の特性を学び、高等生物と何が違うのかを十分に理解するところに始まり、その後の疾患の成立機構、経過、関与する微生物の因子、宿主側の因子、免疫応答などを総合的に理解することを目指す。授業では感染性微生物の中でも、主に細菌学、ウイルス学に関する基本的生物学的知識と、これらによって引き起こされる疾患との関連(病態、防御機構)を宿主の免疫学的な側面から学び、特に感染免疫に関しては、自然免疫系及び獲得免疫系を介した防御の仕組みについての理解を深め、微生物と宿主のダイナミックな応答について学ぶ(講義3回)。またヒトに病原性を有する種々の細菌感染症各論について講義する(3回)。</p> <p>(伊波)</p> <p>3回に分けて講義をおこなう。1回目は「ウイルス学総論」。</p> <p>ウイルスの分類とウイルス感染に起因する病態の概説をおこなう。2回目は「レトロウイルス総論」。レトロウイルスの分子ウイルス学をウイルスと宿主両者の立場から概観する。3回目は「レトロウイルス各論・HTLV-1とHIV」。ヒトに疾病をもたらす表記2種類のレトロウイルスの基礎及び臨床について解説する。</p> <p>(江下・非常勤講師)</p> <p>感染症のなかで、特に寄生虫症を分担する。寄生虫症の発生と感染防御及び病原体である寄生原虫と蠕虫(線虫, 吸虫, 条虫)の生物学的特性を講義する。また、節足動物(昆虫, ダニなど)媒介性感染症の講義も一部担当する。</p> | <p>◎西園 晃 小林 隆志 伊波 英克</p> |

| 授業科目名 | 講 義 等 の 概 要 | 担当教員 |
|----------|--|--|
| 臨床薬理・薬剤学 | <p>治療医学の中心にある薬物療法の根幹をなし、合理的薬物療法を目指す臨床薬理学、薬剤学を理解する。このため、薬理学の基礎や歴史から、薬の作用機序、薬物治療に影響を与える因子、薬の生体内動態、薬の相互作用、新薬の開発などについて理解する必要がある。また、最近の話題としての薬物関連遺伝子についても講義を行う。</p> | <p>◎上村 尚人 伊東 弘樹 寺尾 岳 今井 浩光</p> |
| 細胞分子薬理学 | <p>これまでの薬理学では、薬物が先にあり、その作用機序や標的分子を明らかにしてきた。一方、現在の薬理学では、まず生体の分子の機能を明らかにし、次に薬物の開発に進む。どちらの立場であろうと、薬物を理解するためには、正常なヒトの機能を理解した上で、疾患によってどの機能に異常をきたしたのかを知らなくてはならない。</p> <p>一連の講義では、まず生物の基本単位である細胞の構造や働く仕組みの理解を深める。次に、「新しい薬を発見する」という「真の意味での創薬」に向けた研究について実例をあげて紹介する。</p> | <p>◎石崎 敏理 木村 俊秀</p> |
| 臨床検査医学 | <p>臨床検査の実際と理論を総論及び各論として各検査ごとに講義する。臨床検査は検体検査部門と生理検査部門に大別される。前者はさらに血液・凝固系、血清免疫系、生化学系、輸血系、微生物系に分かれ、病理部門も前者に区別される。さらに遺伝子検査も今後検体検査部一部門として重要になってくると考えられる。一方生理検査部門は、脳神経系検査、循環機能検査、呼吸機能検査等に区別される。これらの検査項目についての実際を学習する。臨床諸疾患の病態における各検査の実施とその解釈についても学習する。その上で検査診断学についても学習する。</p> | <p>◎高橋 尚彦 中川 幹子 駄阿 勉 平松 和史 緒方 正男</p> |

| 授業科目名 | 講義等の概要 | 担当教員 |
|---------------|--|---------------|
| 医療工学・情報学特論 | <p>この講義は情報学と医療工学の2つの内容を担当者が分担して行う。</p> <p>(森)</p> <p>前半は医療工学について森が担当する。現在の臨床の場での画像診断は近年進歩が著しく、X線を使用したX線撮影、X線透視、X線CT (Computed Tomography)、超音波検査、磁気共鳴撮影 (MRI : Magnetic Resonance Imaging)、血管造影 (Angiography) 等で得られた「医用画像データ」から立体的・3次元的に診断でき、かつ質的診断も十分可能となっている。この医用画像はほとんどDigital化されている特徴を持つ。これら診断法の原理と断層解剖を理解させ、基本的な診断技術を学習するとともに、遠隔画像診断 (Teleradiology) の可能性などについても併せて学習させる。またこの画像診断法に、レーザー、高周波、形状記憶合金等をあわせて用いて治療に応用したInterventional Radiology (IVR) は、「低侵襲的治療 Less invasive therapy」の大きな柱のひとつであり、「皮膚に傷が残らない」、「病変をターゲットとして治療して正常部分の機能温存をはかる」、さらに「医療コストの低減」という大きなメリットを有し、患者の生活の質の向上と機能回復に寄与している。これら新しい診断法と治療法の原理と方法を理解させると共に、更に新しい方法を開発すべく医療工学の詳細をあわせて学習させる。</p> <p>(江島)</p> <p>後半は情報学の内容の授業を江島が担当する。情報学は情報現象を数量的に扱う研究分野の総称で、近年はその方法が医学研究へ活発に応用されている。ここでは、確率論、統計学、及び情報理論の基礎を講義する。確率論では確率的な考え方の医学への応用を講義する。統計学では、標本収集、記述統計学、統計的推論、標本分布論等を講義し、実データ解析例の解説を行なう。情報理論では、シャノン情報量、エントロピー、相対情報量の基礎理論と応用について述べる。病原微生物感染システムに関する実際の研究例についても講義する予定である。</p> | ◎森 宣 江島 伸興 |
| 臨床医工学・人工臓器学特論 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医工学を理解する。 2. 臓器不全に対する代替臓器を用いた治療体系を理解する。 総論では生体の代謝系、循環系、構造系における人工臓器による機能代行を、人体の総合的治療の一部として理解する。各論では体外循環、機械的循環法の理論と装置の基礎知識および血液浄化法の種類、装置の基礎知識を学習する。 3. 医療機器安全について学習する。 4. 医療機器開発における取組と問題点を学習する。 | ◎穴井 博文 |

| 授業科目名 | 講 義 等 の 概 要 | 担当教員 |
|--------------------|---|----------------------------------|
| がん化学療法 臨床薬理・薬剤学 | がんの化学療法，抗がん剤のPK/PD，臨床薬理，抗がん剤のレジメン管理，抗がん剤の混合調製，がん化学療法施行患者の服薬指導(治療計画，薬剤の作用機序，副作用とその対策)，疼痛緩和医療などを習得させる。 | ◎伊東 弘樹 |
| 臨床がん 化学療法学 | 患者とのコミュニケーション・スキルの習得，薬物療法（抗がん剤の他，分子標的薬・ホルモン治療薬・抗体治療薬を含む）の適応の理解，薬剤投与法の習得，効果判定法の習得，支持療法の習得，外来治療法の習得，緩和治療の習得，薬剤に関する薬理の理解，がん臨床研究の方法論の理解，標準的化学療法の開発の理解，新規抗がん剤の臨床開発の理解，薬理ゲノム学的研究についての理解を目標とする。 | ◎白尾 國昭 |
| 低侵襲外科学 | 現在，消化器を手術する消化器外科においては，その分野すべてに内視鏡外科手術（腹腔鏡下手術）が導入されている。本授業においては低侵襲外科学のエビデンスや腫瘍に与える影響，将来への展望に関する知識を習得することを目的とする。具体的には内視鏡外科手術の基礎知識，実際の手技，わが国における現状，低侵襲性や安全性，有効性のエビデンス，腫瘍に与える影響，NOTESやロボット手術などについて講義する。 | ◎猪股 雅史 太田 正之 衛藤 剛 岩下 幸雄 |
| 女性生殖医学 | 女性は，思春期，性成熟期，妊娠・出産，更年期など，人生の各段階に応じてその心身の状況が大きく変化する。本講では，女性の一生のステージにおける生理的変化や病態について，ホルモンの作用および女性特有の病態などに視点をおいた健康課題の理解を目的とする。さらに，近年の女性の晩婚化・晩産化・少産化，平均寿命の伸長等に伴う女性の健康に関わる問題について理解と問題意識を高めることを目指す。 | ◎檜原 久司 河野 康志 西田 欣広 |

注. 教員の研究内容については，大分大学ホームページ(<http://www.oita-u.ac.jp/>)をご参照ください。

注. 担当教員欄の◎印は，科目責任者を示す。

14. 医科学専攻 授業科目及び単位数（平成28年度現在）

| | 授業科目の名称 | 年次 | 単位数 | | 修士課程修了の要件 |
|----------------|------------|-----|-----|----|---|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 授業科目の概要 | 基礎生命科学概論 | 1 | 1 | | 本研究科修士課程に2年以上在学し、研究科規程の定めるところにより、必修科目22単位及び選択科目から8単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 |
| | 人体形態学 | 1 | 2 | | |
| | 人体機能学 | 1 | 2 | | |
| | 分子医科学 | 1 | 1 | | |
| | 病理・病態学 | 1 | 2 | | |
| | 社会医学 | 1 | 1 | | |
| | 環境生命科学 | 1 | 1 | | |
| | 臨床医学概論 | 2 | 1 | | |
| | 生命倫理学 | 2 | 1 | | |
| | 医科学演習 | 1・2 | 2 | | |
| | 医科学特別研究 | 1・2 | 8 | | |
| | 基礎生体科学 | 1 | | 1 | |
| | 人体形態学実習 | 1 | | 1 | |
| | 基礎生命科学実習 | 1 | | 2 | |
| | 免疫学特論 | 1 | | 2 | |
| | 感染防御医学 | 1 | | 2 | |
| | 臨床薬理・薬剤学 | 1 | | 2 | |
| | 細胞分子薬理学 | 1 | | 1 | |
| | 臨床検査医学 | 1 | | 1 | |
| | 医療工学・情報学特論 | 1 | | 2 | |
| 臨床医工学・人工臓器学特論 | 1 | | 1 | | |
| がん化学療法臨床薬理・薬剤学 | 2 | | 2 | | |
| 臨床がん化学療法学 | 1・2 | | 2 | | |
| 低侵襲外科学 | 1 | | 1 | | |
| 女性生殖医学 | 1 | | 1 | | |

15. 医科学専攻 授業時間割概要

| | 1時限 | 2時限 | 3時限 | 4時限 | 6時限 | 7時限 |
|----------------------|---|----------------|-----------------|-----------------|-------------------|--------------------------------|
| | | 9:00 ~10:30 | 10:40 ~12:10 | 13:10 ~14:40 | 14:50 ~16:20 | 18:30 ~20:00 |
| 一般学生 (非就業者) | 医科学演習・医科学特別研究 | | | | 講義 | |
| | | | | | 【実習科目】18:30~21:40 | |
| 社会人① (医療・福祉関係に従事) | 医療・福祉関係の学生は日常業務の中からテーマを設定し、指導教員の指導のもとに勤務先で研究を行うことができる | | | | 講義 | |
| | | | | | 【実習科目】18:30~21:40 | |
| 社会人② (上記以外の職種に従事) | | | | | 講義 | 医科学演習・医科学特別研究 (e-ラーニング等の活用) |
| | | | | | 【実習科目】18:30~21:40 | |

16. 医科学専攻 指導教員（教授等）の連絡先一覧（平成28年5月現在）

| 教 員 名 | 内線番号 | FAX番号 | E-mail | 備 考 |
|------------------------|---------|-------------------------|------------|-----|
| あな い ひろ ふみ 穴 井 博 文 | 5 1 4 5 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 1 4 6 | anaiana | |
| あん どう まさる 安 東 優 | 5 8 0 1 | 0 9 7 - 5 4 9 - 4 2 4 5 | mando | |
| いし ざき とし まさ 石 崎 敏 理 | 5 7 2 2 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 7 2 9 | t-ishizaki | |
| い とう ひろ き 伊 東 弘 樹 | 6 1 0 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 1 1 9 | itoh | |
| いの また まさ ふみ 猪 股 雅 史 | 5 8 4 1 | 0 9 7 - 5 4 9 - 6 0 3 9 | inomata | |
| い はら けん じ 井 原 健 二 | 5 8 3 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 8 3 9 | k-ihara | |
| うえ の とく み 上 野 徳 美 | 5 6 0 1 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 1 9 | ueno | |
| うえ むら なお と 上 村 尚 人 | 5 9 5 0 | 0 9 7 - 5 4 9 - 6 0 4 4 | uemura | |
| え しま のぶ おき 江 島 伸 興 | 5 3 7 2 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 1 9 | eshima | |
| お の かつ しげ 小 野 克 重 | 5 6 5 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 6 4 6 | ono | |
| かね いた よし たか 兼 板 佳 孝 | 5 7 3 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 7 3 9 | kaneita | |
| かわ の けん じ 河 野 憲 司 | 6 7 0 0 | 0 9 7 - 5 4 9 - 2 8 3 8 | kekawano | |
| きし だ てつ こ 岸 田 哲 子 | 5 7 5 1 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 7 5 4 | kishida | |
| きた の たか あき 北 野 敬 明 | 5 9 4 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 9 4 9 | tkitano | |
| く ぼ た とし あき 久保田 敏 昭 | 5 9 0 0 | 0 9 7 - 5 4 9 - 6 0 4 3 | tkubota | |
| く ぼ た なお じ 久保田 直 治 | 5 6 0 5 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 1 9 | nkubota | |
| こ ばやし たか し 小 林 隆 志 | 5 7 0 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 7 0 2 | takashik | |
| しげ みつ おさむ 重 光 修 | 6 6 0 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 5 9 8 | oshige | |
| しば た ひろ たか 柴 田 洋 孝 | 5 7 9 4 | 0 9 7 - 5 4 9 - 4 4 8 0 | hiro-405 | |
| しら いし のり お 白 石 憲 男 | 6 1 4 8 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 3 0 7 | norioh | |
| しら お くに あき 白 尾 國 昭 | 5 7 3 4 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 2 7 6 | kshirao | |
| すぎ お けん じ 杉 尾 賢 二 | 5 8 5 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 4 4 9 | ksugio | |
| すず き まさ し 鈴 木 正 志 | 5 9 1 3 | 0 9 7 - 5 4 9 - 0 7 6 2 | suzukim | |
| たか はし なお ひこ 高 橋 尚 彦 | 6 0 3 8 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 2 8 9 | takanao | |
| たに がわ まさ と 谷 川 雅 人 | 5 6 0 3 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 1 9 | tanigawa | |
| つ むら ひろし 津 村 弘 | 5 8 7 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 6 4 7 | htsumura | |

| 教 員 名 | 内線番号 | FAX番号 | E-mail | 備 考 |
|------------------------|---------|-------------------------|--------------|-----|
| てら お 岳 寺 尾 岳 | 5 8 2 0 | 0 9 7 - 5 4 9 - 3 5 8 3 | terao | |
| なか がわ みき こ 中 川 幹 子 | 6 3 4 4 | | mikinak | |
| なら はら ひさ し 檜 原 久 司 | 5 9 2 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 6 8 7 | naraharh | |
| にし その あきら 西 園 晃 | 5 7 1 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 7 1 9 | a24zono | |
| は た の ゆたか 波多野 豊 | 5 8 8 1 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 8 8 9 | hatano | |
| はな だ とし かつ 花 田 俊 勝 | 5 6 6 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 6 5 | thanada | |
| はな だ れい こ 花 田 礼 子 | 5 6 4 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 4 9 | reiko-hanada | |
| はま だ ふみ ひこ 濱 田 文 彦 | 5 6 2 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 2 3 | hamadaf1 | |
| ふじ き みのる 藤 木 稔 | 5 8 6 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 8 6 9 | fujiki | |
| ふじ くら よし ひさ 藤 倉 義 久 | 5 6 3 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 2 2 1 | ham8 | |
| まつ うら けい こ 松 浦 恵 子 | 5 6 0 8 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 1 9 | matsuura | |
| まつ ばら えつ ろう 松 原 悦 朗 | 5 8 1 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 5 0 2 | etsuro | |
| み また ひろ みつ 三 股 浩 光 | 5 8 9 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 8 9 9 | mimata | |
| み やけ ひで とし 三 宅 秀 敏 | 5 4 9 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 1 6 0 | miyakeh | |
| みや ぎき えい し 宮 崎 英 士 | 6 1 4 9 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 3 0 7 | eishida | |
| みや もと しん じ 宮 本 伸 二 | 6 7 3 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 7 3 9 | smyamot | |
| むら かみ かず なり 村 上 和 成 | 6 1 9 1 | 0 9 7 - 5 8 6 - 6 1 9 4 | murakam | |
| もり ひるむ 森 宣 | 5 9 3 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 0 0 2 5 | morihrmu | |
| もり やま まさ つぐ 守 山 正 胤 | 5 6 9 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 9 9 | mmoriyam | |
| やま おか よし お 山 岡 吉 生 | 5 7 4 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 7 4 9 | yyamaoka | |
| よこ やま しげ お 横 山 繁 生 | 5 6 8 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 8 6 | yokoyama | |
| よし おか ひで かつ 吉 岡 秀 克 | 5 6 7 0 | 0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 7 4 | hidey | |

- (注) 1. 出願を希望する者は、あらかじめ志望する指導教員と相談の上出願してください。
2. 本学はダイヤルイン方式になっています。したがって、市外から電話をする場合は市外局番(097)及び局番(586)の後に内線番号をダイヤルすれば、担当教員と直接通話ができます。
3. E-mailは、ドメイン名以下(@oita-u.ac.jp)を省略して表示しています。

看護学専攻

平成29年度看護学専攻学生募集要項

1. 入試日程

| 区 分 | 第1次募集 | 第2次募集 | 第3次募集 |
|-------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 出願期間 | 平成28年7月11日（月） ～平成28年7月15日（金） | 平成28年9月16日（金） ～平成28年9月23日（金） | 平成29年2月13日（月） ～平成29年2月17日（金） |
| 試験日 | 平成28年7月26日（火） | 平成28年10月13日（木） | 平成29年3月7日（火） |
| 合格者発表 | 平成28年8月9日（火） | 平成28年11月4日（金） | 平成29年3月20日（月） |

※募集人員に達した場合は、以後の募集は行いません。

※第2次募集、第3次募集を行う場合は、大分大学ホームページでお知らせします。

2. 募集人員

看護学専攻 10名

3. 募集する専攻コース

| | |
|-------------------|------------|
| 看護研究コース（実践・管理・教育） | 両コース併せて10名 |
| 専門看護師コース（がん看護） | |

4. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者（平成29年3月末までに出願資格に該当する見込みの者も可）

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- (6) 大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めたもの
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 本学大学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したものと及び平成29年3月末日までに22歳に達するもの

5. 出願資格認定

出願資格(6), (8)のいずれかにより出願しようとする者については, 事前に出願資格の審査を受け, 出願資格を有することが認定された者のみ出願することができますので, 関係書類を次により提出してください。(出願資格認定を希望する者は, 事前に志望する指導教員に相談してください。)

(1) 出願資格(6)により出願しようとする場合

| 提出書類 | 摘要 |
|-----------------------------|--|
| ① 出願資格認定申請書 | 本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。 |
| ② 成績証明書 | 出身学校の長が証明したもの。 |
| ③ 在学証明書 (在学年次が明記されているもの) | 日本語及び英語以外の証明書は, 日本語訳又は英語訳を添付してください。 ※改姓により, 現在の氏名と証明書の氏名が相違する場合は, 戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。 |

(2) 出願資格(8)により出願しようとする場合(次の認定基準を満たしている場合に限ります。)

① 認定基準

看護系短期大学, 専修学校, 各種学校等の卒業者で, 次の各号の全てに該当するもの

ア 看護師, 保健師又は助産師の資格を有すること。

イ 上記アの資格で, 5年(実質)以上の実務経験があること。

ウ 研究会・学会発表もしくは研究報告等の経験があること。

エ 研究テーマを持ち, 意欲的に学ぶ姿勢があること。

② 提出書類

| 提出書類 | 摘要 |
|-------------|---|
| ① 出願資格認定申請書 | 本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。 |
| ② 業績一覧 | 本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。(主な研究会発表等について確認できる書類のコピーを各1部添付してください。ただし, 提出する書類は3篇までとします。) |
| ③ 研究計画書 | 本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。 |
| ④ 免許証の写 | 看護師, 保健師又は助産師の免許証の写(A4サイズに縮小してください。) ※改姓により, 現在の氏名と証明書の氏名が相違する場合は, 戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。 |
| ⑤ 在職期間証明書 | 5年(実質)以上の実務経験を有することの証明書 |

(3) 提出期間 第1次募集 平成28年6月20日(月)～6月24日(金)17時まで(必着)

第2次募集 平成28年8月17日(水)～8月19日(金)17時まで(必着)

第3次募集 平成29年1月16日(月)～1月20日(金)17時まで(必着)

(4) 提出方法 郵送に限ります。

「速達簡易書留」郵便で, 封筒の表に「出願資格認定申請書在中」と朱書きし, 郵送してください。

(5) 提出先 大分大学学生支援部入試課(旦野原キャンパス)

(6) 認定の結果 認定の結果は, 下記期日までに本人に通知します。

第1次募集 平成28年7月6日(水)

第2次募集 平成28年9月6日(火)

第3次募集 平成29年2月8日(水)

6. 出願手続

(1) 出願期間 第1次募集 平成28年7月11日(月)～7月15日(金)17時まで(必着)

第2次募集 平成28年9月16日(金)～9月23日(金)17時まで(必着)

第3次募集 平成29年2月13日(月)～2月17日(金)17時まで(必着)

(2) 出願方法

- ① 第2志望まで出願することができます。
- ② 出願を希望する者は、**出願する前に志望する指導教員（P.41に掲載されている指導教員の教育・研究内容及び連絡先一覧を参照）と相談の上**、志望する専攻コースを定めて出願してください。第2志望まで出願する者は、第2志望の指導教員にも必ず相談してください。
- ③ 出願書類等は、持参又は郵送により、提出してください。
- ④ 願書受付場所 大分大学学生支援部入試課（旦野原キャンパス）
- ⑤ 受付時間 9時から17時まで
- ⑥ 郵送の場合 「速達簡易書留」郵便で、下記あてに郵送してください。
 (あて先) 〒870-1192 大分市大字旦野原700番地
 大分大学学生支援部入試課

(3) 出願書類等

| 出 願 書 類 等 | 摘 要 |
|---|--|
| ① 入 学 志 願 書 | 本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。 |
| ② 受 験 票 ・ 写 真 票 | |
| ③ 入 学 検 定 料 振 替 払 込 受 付 証 明 書 等 (30,000円) | <p>①②のいずれかの方法でお支払いください。</p> <p>①金融機関（郵便局を含む）でお支払いの場合 本学所定の振込用紙を用い、必ず窓口でお支払いください(ATM不可)。 お支払い後は「振替払込受付証明書（大学提出用）」を受験票の貼付欄に貼ってください。</p> <p>②コンビニエンスストア（一部）でお支払いの場合 下記URLから申し込み、受付番号を入手後コンビニエンスストアでお支払いください。</p> <p>お支払い後は、「収納証明書（コンビニエンスストアによっては領収書）」を受験票の貼付欄に貼ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンからの本学ホームページ (http://www.oita-u.ac.jp/) <input type="button" value="メニュー"/> → <input type="button" value="入試情報"/> → <input type="button" value="入学検定料のコンビニ収納"/> から申し込んでください。 ・携帯電話からの申込みURL (https://www.oita-u.net/mobile/) <p>※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは、アクセスできないことがあります。 ※手数料は本人負担です。 ※納入した検定料は返還できません。 ※国費外国人留学生については、納付する必要はありません。</p> |
| ④ 成 績 証 明 書 | <p>出身学校等の長が証明したもの。 日本語及び英語以外の証明書は、日本語訳又は英語訳を添付してください。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。)</p> |
| ⑤ 卒 業 (見 込) 証 明 書 又 は 修 了 (見 込) 証 明 書 | <p>出身学校等の長が証明したもの。 日本語及び英語以外の証明書は、日本語訳又は英語訳を添付してください。</p> |
| ⑥ 学 位 授 与 証 明 書 又 は 学 位 授 与 申 請 書 受 理 証 明 書 | 出願資格(2)に該当する者は、大学評価・学位授与機構が証明した学位授与証明書又は学位授与申請書受理証明書を提出してください。 |
| ⑦ 研 究 計 画 書 | 本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。) |
| ⑧ 出 願 資 格 認 定 通 知 書 (写) | 本学の出願資格審査を受け、出願資格ありと認定された者は、出願資格認定通知書のコピーを提出してください。 |



| | |
|------------------------|---|
| ⑨ 住民票の写し (外国人志願者のみ) | 日本に在住する外国人は、市・区・町・村長の発行した「住民票の写し」(在留資格が記載されたもの)を提出してください。なお、入学志願書等には、この住民票の写しに記載された氏名を記入してください。 |
| ⑩ 受験及び就学承諾書 (有職者のみ) | 入学後も在職のまま就学しようとする者(本要項P. 30参照)は、出願に際して本要項に添付している本学所定の用紙により、所属機関長(病院所属であれば病院長)の受験及び就学承諾書を提出してください。また、提出にあたっては、 事前に指導教員と相談 してください。 |
| ⑪ 住所シール | 本要項に添付している住所シールに志願者の郵便番号、住所(合格通知等を受け取る場所)及び氏名を必ず記入してください。 |
| ⑫ 受験票等送付用封筒 | 本要項に添付している本学所定の長形3号の封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し、郵便切手(362円)を貼ってください。 |

7. 出願上の注意事項

- (1) 入学志願書の記入漏れ等がないように十分留意してください。
- (2) 改姓により、現在の氏名と各提出書類の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。
- (3) 一度受理した出願書類等及び入学検定料は、いかなる理由があっても返還しません。
- (4) 出願期間後に到着したもの及び出願書類等の不備なものは受付できません。
- (5) 出願書類等は一括してとりそろえ、志願者が直接出願してください。
- (6) 出願書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

8. 個人情報の取扱い

志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシー」に基づき、入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学科・授業料免除(猶予)及び奨学金を申請した場合には、選考資料として利用します。

9. 受験票の交付

受験票は、出願書類受理後、本人に郵送により交付します。

なお、試験前日までに受験票が到着しないとき、又は受験票を紛失したときは、出願時に提出したものと同一の写真を1枚持参の上、試験当日の9時30分から10時までに受付へ申し出てください。

10. 入学者選抜方法

(1) 学力検査等

小論文(看護学及び医療・保健・福祉に関する問題)、口述試験及び成績証明書により行います。

(2) 試験期日及び学力検査科目

| 期 | 日 | 科目名等 | 時間 |
|-------|----------------|------|---------------|
| 第1次募集 | 平成28年7月26日(火) | 小論文 | 10時30分～12時00分 |
| 第2次募集 | 平成28年10月13日(木) | | |
| 第3次募集 | 平成29年3月7日(火) | 口述試験 | 13時00分～ |

※試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内に試験室へ到着した場合に限り、受験を認めます。

(3) 試験会場

大分大学医学部 ^{はさま} 挾間キャンパス
所在地 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 (P.46 大分大学位置図参照)
交通アクセス ◎バス利用 (大分バス)

大分バス本社前 [トキハデパート前] 2番のりば又はJR大分駅府内中央口 (北口) 大分駅前4番のりばから「大学病院」行きを利用
「大学病院」下車 (所要時間約40分)

11. 修了後の取得資格について

本専攻は教職課程の認定を受けております。

養護教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状「看護」を所持する本専攻入学者に対して、本専攻を修了することにより、それぞれ養護教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状「看護」を取得する資格が与えられます。

12. 長期履修制度について

この制度では、標準修業年限を超えて計画的に授業科目を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修制度を利用できる対象者は、有職者及び正規の履修期間内で修学が困難な事情がある者 (家事、育児及び介護など) です。

この制度の利用は原則として入学時の申請により認められます。また、修学状況等の変動により、申請した修業年限を短縮することも可能です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、下記の「授業料の納入例」を参照して下さい。

また、入学後履修期間を延長する場合、授業料総額に追加的費用が発生します。

なお、申請方法等については後日合格通知書等でお知らせします。

【授業料の納入例】 (年度により変更がないと仮定した場合)

標準修業年限 (2年)

| | | |
|-------------------|-------------------|------------|
| 1年次 (535,800円) | 2年次 (535,800円) | 1,071,600円 |
|-------------------|-------------------|------------|

ア 入学時に申請し、3年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

| | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1年目 (357,200円) | 2年目 (357,200円) | 3年目 (357,200円) |
|-------------------|-------------------|-------------------|

$1,071,600円 \div 3年 = 357,200円$

イ 入学時に申請し、4年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

| | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1年目 (267,900円) | 2年目 (267,900円) | 3年目 (267,900円) | 4年目 (267,900円) |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|

$1,071,600円 \div 4年 = 267,900円$

13. 社会人への特例措置 (昼夜開講制)

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっていますが、通常の教育方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されることとなります。このため、大学院設置基準第14条では、次のような規定のもとに、社会人の就学への配慮をしています。

「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時

間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」

このことを踏まえ、本学修士課程看護学専攻では、社会人が更なる探求の機会を取得できるように、上記の「教育方法の特例」を適用して、昼夜開講制による授業等を平成16年度から実施しています。

14. がん専門看護師の資格取得を希望する者の履修について

本学修士課程看護学専攻では、平成21年度から専門看護師「がん看護」の資格取得に必要な授業科目を設けました。平成21年4月から適用の教育課程は、平成22年度に日本看護系大学協議会における「専門看護師教育課程」の認可を受けております。

専門看護師資格取得に必要な教育課程における履修科目や実習などの要件は、P.39「17. 看護学専攻 履修方法及び概略図」となりますが、志望する者はあらかじめ事前相談窓口の寺町芳子教授（P.41の指導教員の連絡先一覧参照）に必ず相談して出願してください。

15. 入学案内

1) 大分大学大学院医学系研究科の理念

最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない道徳観と、それを支える豊かな教養を身につけた医療人及び研究者を育成し、もって医学及び看護学の進歩、国民健康の維持増進、さらに医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に貢献する。

また、「患者本位の最良の医療」を基本理念とし、高度先進医療の開発と提供及び倫理観豊かな医療人の育成により地域社会の医療・福祉の向上に貢献する。

2) 大学院医学系研究科修士課程の教育目標

医療全般にわたって広い視野と高い見識を持ち、優れた指導力を持った教育者、研究者及び国際社会に貢献できる人材を育成する。

3) 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻の教育目的・目標

①教育目的

医療全般にわたって広い視野と高い見識を持ち、専門的な知識と科学的思考、論理的判断を基に他の職種と連携をとりながら、個人とその家族又は集団の持つ健康問題の解決のために適切な援助ができる豊かな人間性を持った看護実践専門家、優れた指導力を持った看護教育者、看護学の学問体系の確立のための研究者及び国際社会に貢献できる人材を育成する。

②教育目標

共通科目及び専門科目における講義、演習、臨地実習及び特別研究を通して、以下の資質を備えた人材を育成する。

- (1) 看護倫理を各専門領域の看護実践に応用することができる人材
- (2) 看護実践及び看護管理に関する高度な専門知識と技術を発揮することができる人材
- (3) 保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職としての意思決定及び主体的行動がとれるとともに、指導力を発揮することができる人材
- (4) 看護教育の理論と実践に関する高度な知識と技術を修得し、優れた教育活動を実践することができる人材
- (5) 看護理論の検証や看護技術の開発、検証を行い、実践に応用することができる人材
- (6) 複雑かつ多様な人々の健康問題に柔軟に対応し、学術的及び国際的に活躍することができる人材

4) 修業年限

2年を標準とします。

5) 学生定員

| 定員 | 入学定員 | 収容定員 |
|-------------|------|------|
| 専攻 看護学専攻 | 10 | 20 |

16. 看護学専攻 授業科目の講義等の概要及び担当教員（平成28年度）

| 区分 | 授業科目 | 講義等の概要 | 担当教員 |
|--------------------|--------------|--|--------|
| 共通 必修 科目 | 看護理論 | 代表的な看護に関連する諸理論の概念・特徴を学ぶことを通して、看護現象を科学的に見つめ、看護実践への活用可能性について探求し続ける態度・能力を培う。 | 清村紀子 |
| | 看護倫理 | 「生命」「人間の尊厳」とは何かを探求し、それらの視点から看護における倫理的諸問題を分析し、問題解決のための方法を追究する能力を養う。さらに看護専門職としての責務や役割について考察する。 | 杉田 聡 |
| | 看護研究概論 | 看護研究の本質と研究プロセスの基本を学び、看護実践や看護管理・教育実践の質向上、方法論の開発に向けた研究能力の基盤を培う。 | 三重野 英子 |
| 共通 選 択 科目 | 看護研究方法論 | 研究とは自らが設定した仮説を証明すること。証明方法には量的分析法と質的分析法があり、ここではそれぞれについて具体的な手法を学ぶ。 | 穴井孝信 |
| | 保健医療福祉政策論 | わが国の保健医療福祉政策において、看護に関連する法律や制度に関して、社会的背景や政策形成過程を含めて理解を深めるとともに、他国の政策や過去の政策との比較という視点を取り入れて、看護実践をとりまく法律や制度について討議し、政策形成過程における看護職の役割を探求する。 | 井手 知恵子 |
| | 看護コンサルテーション論 | 看護職が職務を遂行する過程で直面する、複雑で対応困難な問題を抱える患者・家族の問題、また医療チームの中の問題解決に向けて、看護の立場からの相談の理論と技術を使って支援する専門的な能力を培う。 | 河村 奈美子 |
| | 看護実践イノベーション論 | 保健医療福祉を取り巻く様々な環境変化、意識の多様化の中で、より良い看護サービスの実践や看護サービス管理実践に取り組むうえで求められる、問題や課題の解決にむけ、改革するための能力や態度を養う。 | 原田 千鶴 |
| 目 | 看護専門職教育論 | 教育的役割を担う看護管理者や看護教育者、専門看護師が、教育および看護実践領域において体系的な教育活動を展開する為に必要な基礎的知識・技術を学び、看護専門職教育の視座や基礎的な教育/学習理論を活用して、学習を支援する能力を培う。 | 原田 千鶴 |

| 区分 | 授業科目 | 講義等の概要 | 担当教員 |
|----|--------------|--|-------|
| 共通 | ※保健統計学特論 | 看護学における研究や臨床における活動をまとめる際に必要な統計技法を学ぶ。内容は、記述統計、t検定といった基礎的なものから、重回帰分析、多項ロジスティック回帰等の多変量解析も含む。 | 杉田 聡 |
| | 看護情報学 | 看護で取り扱う情報の性質について理解し、看護情報システムを活用できる能力を養うとともに、看護領域のシステム化活動において中心的な役割を果たすことができる能力を修得する。 | 島岡 章 |
| 通 | フィジカルアセスメント論 | 心身の健康状態を適切に捉え、査定するためのアセスメント技術を修得する。看護実践の場で用いている技術を再検討し、看護者による系統的アセスメントの方法論を探究する。 | 濱口 和之 |
| 選 | がん病態生理論 | 「がんとは何か」。これを確実に理解すべく、遺伝子の正常な働き、細胞増殖の仕組みの理解を基本とし、がん細胞における遺伝子の異常と発癌機構、および体内におけるがん細胞の影響を理解し、疫学的エビデンスに基づく予防や早期発見について理解する。また、がんの進行に伴う身体的・精神的症状の病態生理や化学療法や放射線療法の基礎となるがん細胞に対する抗がん剤や放射線の作用について理解することにより、がん治療を受ける患者に必要な看護における症状マネジメントや理論的根拠を修得する。 | 井上 亮 |
| 択 | がん治療論 | がん病態生理論の講義をもとに、がん治療学総論と各臓器がんの診断・治療について、また、今後発展の望まれる最新治療についても理解することを目的とする。がん疾患に対する治療法を理解することにより、がん治療を受ける患者に対して必要な看護の理論的基盤を修得する。 | 井上 亮 |
| 目 | がん看護論 | がん患者やその家族を理解し、全人的ながん看護における卓越した実践をするための基盤となる概念や理論、看護モデルを探求する。これらの理論のがん看護の実践および研究への適用を検討し、がん看護実践のあり方や研究課題について考察すると共に、がん看護領域における倫理的課題を明確にすることにより、卓越したがん看護実践の理論的基盤を得る。 | 寺町 芳子 |

| 区分 | 授業科目 | 講義等の概要 | 担当教員 | |
|------|------------------------|---|--|-------|
| 専門科目 | 健康科学分野 健康と病いの思想・社会学 | 看護学の領域を含めた健康と病いに関わる事象を考察する際に有用な思想、及び医療社会学の理論や手法を学ぶ。内容は、ジェンダーとセクシュアリティ、エンハンスメント、正常と異常の概念健康の不平等格差、健康の権利と義務、等。 | 杉田 聡 | |
| | 看護 ※看護連携実践論 | 保健医療福祉の多様な実践活動における「連携」の現状と、その基本となる理論と手法を理解し、看護の支援方法として多職種との協働のあり方について、また看護専門職の役割としての連携システムの構築について考察する。 | 井手 知恵子 | |
| | 管理 看護経営組織論 | 看護管理の体系的な知識と方法について学び、事例検討や課題検討において活用することより看護サービスの管理能力を養うことをねらいとする。 | 原田 千鶴 | |
| | 教育 ※看護生涯教育論 | 看護者の生涯学習を支援するために、生涯教育理論を基盤にした学習、および人間形成に関する内容・方法、社会的システム、教育計画・条件整備などについて学ぶ。これらをふまえ、看護の学習者支援の方向性を考える。 | 脇 幸子 | |
| | 1 育 ※看護基礎教育論 | 看護学教育における歴史的展開や制度、基礎的学習理論、教育方法、教育評価について学ぶ。さらにそれらの事をふまえ、看護学教育の実際の場で生じる問題や課題について考察する。 | 幸松 美智子 | |
| | ス 野 公衆衛生看護管理・教育論 | 地域看護活動において、人々の健康レベルの向上を図る管理・組織運営機能について理解し、看護職の政策形成やその役割遂行上の課題を検討する。これにより地域の健康管理を保障する看護活動方法を探究する。 | 井手 知恵子 | |
| | 科目 | 看護 母子看護学特論 | 成長発達過程にある子どもと家族、そして次世代を産み育む過程にある対象へ、よりよい看護ケアを探究するため、事例を通して多角的な観点から検証し、実践への応用と看護の専門性を考察する。 | 水谷 幸子 |
| | | 実践 慢性看護学特論 | ますます複雑化する慢性病と共に生きるのに生じる健康問題、疾病の予防、豊かな健康生活の維持に向けた継続的な医療管理とセルフケアの確立のために、慢性病に関する保健・医療・福祉の動向、および慢性看護に関する諸理論や概念、研究、慢性看護の臨床知をふまえ、慢性看護の役割や課題を探究し、慢性看護の実践者として基盤となる能力を修得する。 | 脇 幸子 |
| | | 分野 | | |

| 区分 | 授業科目 | 講義等の概要 | 担当教員 |
|----------|---------------|---|-------|
| 専門 科目 | ※慢性疾患診断・治療論 | 慢性疾患，特に神経難病系，内分泌・代謝系，膠原病系などの診断プロセスと治療の基本原理を学ぶ。さらに，看護の視点から，これらの疾患が心身および生活に及ぼす影響を査定し，治療効果を高める介入方法を立案する。 | 濱口和之 |
| | 精神看護学特論 | 精神科治療に必要とされる専門的な治療技法や看護介入方法について知識と技術の修得を目指す。 また精神科医療における身体療法や精神療法，心理社会的療法という治療の種類と適用について理解を深め，それぞれの対象者の疾患や症状に合わせた治療の適用と看護の役割について探究する。 | 河村奈美子 |
| | 精神看護援助論 | 現代社会における心の健康に関する問題について社会心理的側面から理解し，エビデンスに基づいた専門的な介入を実践するための基盤となる理論や概念，モデルの基本的知識を修得を目指す。また対象者の心理社会的理論を活用してアセスメントし，看護援助方法について検討することや看護実践を深く振り返ることにより精神看護の専門的な知識・技術を高める。 | 河村奈美子 |
| | 在宅看護論 | 在宅で療養する様々な対象のニーズに適切に対応できるように必要な保健医療福祉制度や理論，方法論について学び，在宅看護の専門性を探求する。 | 寺町芳子 |
| | ヘルスプロモーション看護論 | ヘルスプロモーションの概念と国際的動向をふまえ，個人の健康推進を支援する方法論の開発と，健康推進のための技術の開発，組織の改変，政策づくりなどの環境整備における看護の機能について探求する。 | 志賀たずよ |
| | 家族看護論 | 家族を単位とした看護ケアの発展をめざし，家族看護学の背景理論と家族アセスメント，家族ケア機能を高める援助方法，家族の心理的サポート，健康教育，ケアマネジメント，家族カウンセリング，家族療法などの援助方法について理解する。 | 井手知恵子 |
| | 老年看護学特論 | 老年看護学の諸理論・モデルを系統的に学び，あらゆる健康レベルにある高齢者とその家族への個別的看護を的確に展開する能力，老年看護を創造・開発する能力を養う。 | 三重野英子 |
| | 実践 分野 | | |

| 区分 | 授業科目 | 講義等の概要 | 担当教員 |
|----------|---------------|---|---------|
| 専門実践科目 | 高齢者疾病・治療論 | 高齢者の健康維持・増進・回復さらにやすらかな死を支える看護において裏づけとなる老年医学の知識を学ぶ。老年期特有の疾病・症候の機序と要因および生命予後・生活機能への影響，診断・治療の過程と要点について理解を深める。 | 三重野 英子 |
| | 認知症看護援助論 | 認知症の発症から終末期までの経過において生じる認知症高齢者（家族を含める）の看護ニーズを的確にとらえ援助するための看護実践能力を養う。 | 三重野 英子 |
| | クリティカルケア看護学特論 | 生命危機の状況，クリティカルケアを必要とする患者・家族に及ぼす影響を理解し，患者・家族の体験について，危機理論，ストレス・コーピング理論等を用いて理論的に追求し，看護の方向性や課題を明かにする。生命の危機状況にある患者の個人の意思決定の実際を知り，倫理的課題をふまえた看護の方向性を考える。 | 末 弘 理 恵 |
| | クリティカルケア治療管理論 | 高度であり，集中的な治療を必要とする患者の病態，主な検査・治療処置を学び，患者の身体状況についてアセスメントし，適切な看護援助を実践する能力を養う。また，重症患者の身体侵襲における生体反応を学び，患者の身体状態およびその経過に応じた看護を実践する能力を養う。 | 末 弘 理 恵 |
| | クリティカルケア看護援助論 | クリティカルケア状況にある患者は，突然の発症や予後不安に対する不安・恐怖，外傷や手術療法，検査・治療，疾病等より生じる疼痛，循環・呼吸不全等の症状など様々な要因により，身体・心理・社会・スピリチュアル的において高度な苦痛を体験する。このような患者の苦痛や症状を緩和するため，理論や概念を用い探究し，看護実践について考察する。 | 末 弘 理 恵 |
| がん看護専門分野 | がん看護援助論 | 初診から再発期，終末期までの闘病過程におけるがん患者とその家族に生じるさまざまなニーズや問題に対して，多職種との連携をはかりながら，患者の生活調整やセルフケア能力をエンパワーメントする看護援助や調整について，卓越した看護実践能力を修得する。さらに，がん治療・がん看護の現状を踏まえ，がんの予防や早期発見に向けてのヘルスプロモーションにおけるがん看護専門看護師としての役割や援助の方法を考察する。 | 寺 町 芳 子 |

| 区分 | 授業科目 | 講義等の概要 | 担当教員 |
|----------------------|-----------|--|--------------------------|
| 専門 看護 分野 科目 | 緩和ケア論Ⅰ | 緩和ケアに関連した理論や既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら、終末期のがん患者の全人的ケアとしての症状マネジメントや精神的・社会的・スピリチュアル的苦痛に対するアプローチ法、補完・代替療法に対するアプローチ法、がん疾患以外の患者の緩和ケアについて探求し、がん看護専門看護師としての患者の状況に応じた卓越した看護の実践能力を修得する。 | 寺町芳子 |
| | 緩和ケア論Ⅱ | がん治療やがん看護の基盤となる理論や既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら、がん患者の家族のセルフケアを高める看護や在宅看護に関する学習を深め、終末期のがん患者とその家族への卓越した看護の実践能力を修得する。さらに、緩和ケアに関するチーム医療、倫理的問題、教育、研究などの現状と課題、その取り組みについての学習を深め、緩和ケアにおける看護援助のあり方や今後の課題について洞察する。 | 寺町芳子 |
| | がん化学療法看護論 | がん化学療法の実施におけるエビデンスやリスクマネジメントについて学び、がん化学療法を受ける患者に対する、有害事象の症状マネジメントや精神的・社会的苦痛の緩和を含めたアプローチ法について学習を深め、治療期に化学療法を受ける患者の緩和ケアにおける卓越した実践能力を修得する。さらに、これらの学びを踏まえがん化学療法におけるがん専門看護師の果たす役割を開発していく能力を修得する。 | 寺町芳子 |
| | 実践課題実習 | 看護実践の場における実践上の課題を明確にし、問題解決へ向けての実践計画の立案、さらにその実践計画を実行し評価を行う。 | 看護系教員 (各教授及び 各准教授) |

| 区分 | 授業科目 | 講義等の概要 | 担当教員 | |
|----------|---------|--|--|------|
| 特別 研究 | 特別研究 | 研究課題の明確化を図る。研究計画を立案し、データを収集、分析する。論文を作成後にプレゼンテーションを行う。 | 各教授及び各准教授 | |
| | 実践課題研究Ⅰ | 看護実践上の問題及び課題の明確化を図る。看護実践計画立案と看護実践のデータ化、分析を行い、論文を作成する。論文作成後にプレゼンテーションを行う。 | 各教授及び各准教授 | |
| | 実践 | がん看護実践演習Ⅰ | さまざまな臨床問題を持つがん患者を受け持ち、直接ケアを通して、がん看護における専門看護師としての卓越した実践能力を養う。がん看護の実践に当たっては、がん看護学領域の専任教員のスーパーバイスを受けながら、専門的な知識と経験を積み重ね、がん看護のケア開発能力を培っていく。さらに、この実習を通してがん看護における倫理的課題や教育的課題を分析し、解決に向けての方向性を検討する。 | 寺町芳子 |
| | | 課題 | がん看護実践演習Ⅰにおける卓越した看護実践を踏まえ、がん看護専門の指導のもとに、さまざまな病期、病態のがんを持ちながら治療し、がんとともに生活している人とその家族へのケアと実際のがん看護専門看護師の活動を体験し、がん看護専門看護師としての役割（高度な実践、コンサルテーション、他職種との連携・調整、スタッフ教育、倫理的判断と調整、研究）を学ぶ。この実習での学びを基に、がん看護実践演習Ⅲに向けての自らの課題を明確にする。 | 寺町芳子 |
| | 科目 | 実践 | がん看護実践演習Ⅰ・Ⅱの実習を踏まえ、複雑で対応困難な問題をもつがん患者や家族に対して、専門知識や技術を用いて個別なケア計画を立て看護師とともに卓越した看護を実践する。さらに、がん看護学領域の専任教員やがん看護専門看護師のスーパーバイスを受けながら、がん看護専門看護師の果たすべき機能に対して、貢献できる課題をアセスメントした上で、介入計画を立て実施し、がん看護専門看護師としての能力を開発する。 | 寺町芳子 |
| | | Ⅱ | 看護研究の本質と基本的方法を学び、がん看護の実践の現場で生じる様々な問題や課題を研究を通して分析、改善し、実践の質を高める能力を養う。 | 寺町芳子 |

※は隔年開講等により、平成28年度は開講しません。

17. 看護学専攻 履修方法及び概略図（平成29年度予定）

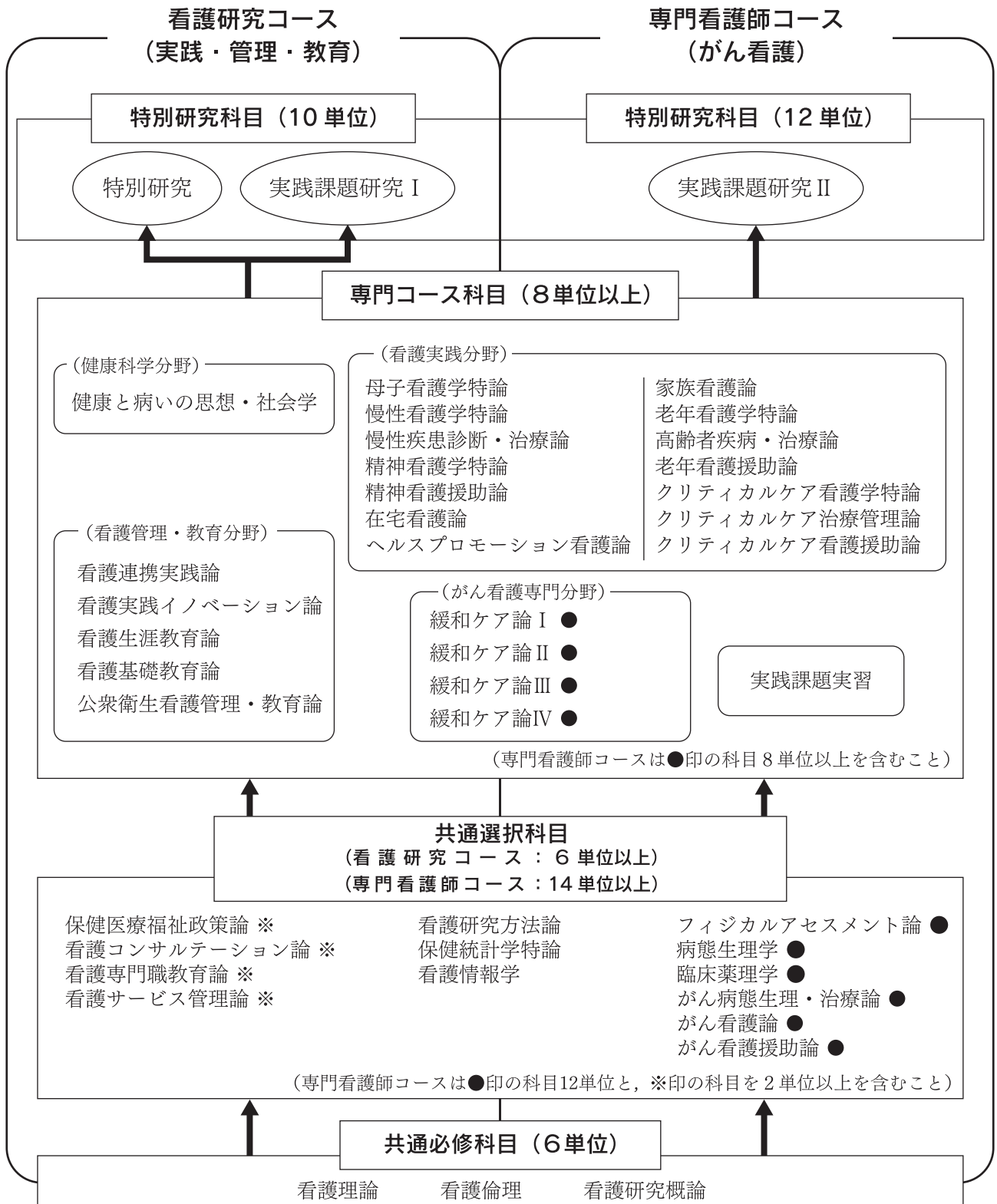
指導教員の指導・助言のもとに、下表に掲げる授業科目のうち、次のとおり履修するものとする。

看護研究コース（実践・管理・教育）は、共通必修科目6単位、共通選択科目から6単位以上、専門コース科目から8単位以上、特別研究科目10単位の計30単位以上。

専門看護師コース（がん看護）は、共通必修科目6単位、共通選択科目から●印科目の12単位と※印の科目から2単位以上を含む14単位以上、専門コースから●印の科目を含む8単位以上、特別研究科目12単位の計40単位以上。

| 区分 | 授業科目 | 必要単位数 | 開講年次 | 専攻コース | | |
|---------------|--------------------|-------------------------------------|--------------|-----------------------|--------------------|---|
| | | | | 看護研究コース (実践・管理・教育) | 専門看護師コース (がん看護) | |
| 共通必修 科目 | 看護理論 | 6単位 | 1年・前期 | 2 | 2 | |
| | 看護倫理 | | 1年・後期 | 2 | 2 | |
| | 看護研究概論 | | 1年・前期 | 2 | 2 | |
| 共通選択 科目 | 保健医療福祉政策論 | 看護研究コース 6単位以上 | 1・2年次 | 2 | 2 ※ | |
| | 看護コンサルテーション論 | | 1・2年次 | 2 | 2 ※ | |
| | 看護専門職教育論 | | 1・2年次 | 2 | 2 ※ | |
| | 看護サービス管理論 | | 1・2年次 | 2 | 2 ※ | |
| | 看護研究方法論 | | 1・2年次 | 2 | 2 | |
| | 保健統計学特論 | | 1・2年次 | 2 | 2 | |
| | 看護情報学 | | 1・2年次 | 2 | 2 | |
| | フィジカルアセスメント論 | | 1・2年次 | 2 | 2 ● | |
| | 病態生理論 | | 1・2年次 | 2 | 2 ● | |
| | 臨床薬理学 | | 1・2年次 | 2 | 2 ● | |
| がん病態生理・治療論 | 専門看護師コース 14単位以上 | 1・2年次 | 2 | 2 ● | | |
| がん看護論 | | 1・2年次 | 2 | 2 ● | | |
| がん看護援助論 | | 1・2年次 | 2 | 2 ● | | |
| 健康科学分野 | | 健康と病いの思想・社会学 | 1・2年次 | 2 | 2 | |
| 専門 科目 | | 看護管理 ・教育分野 | 看護連携実践論 | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | | | 看護実践イノベーション論 | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | | | 看護生涯教育論 | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | | | 看護基礎教育論 | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | | | 公衆衛生看護管理・教育論 | 1・2年次 | 2 | 2 |
| 専門 科目 | | 看護実践 分野 | 8単位以上 | 母子看護学特論 | 1・2年次 | 2 |
| | 慢性看護学特論 | | | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | 慢性疾患診断・治療論 | | | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | 精神看護学特論 | | | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | 精神看護援助論 | | | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | 在宅看護論 | | | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | ヘルスプロモーション看護論 | | | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | 家族看護論 | | | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | 老年看護学特論 | | | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | 高齢者疾病・治療論 | | | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | 老年看護援助論 | | | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | クリティカルケア看護学特論 | | | 1・2年次 | 2 | 2 |
| | クリティカルケア治療管理論 | | | 1・2年次 | 2 | 2 |
| クリティカルケア看護援助論 | 1・2年次 | 2 | 2 | | | |
| がん看護 専門分野 | 緩和ケア論Ⅰ | 1・2年次 | 2 | 2 ● | | |
| | 緩和ケア論Ⅱ | 1・2年次 | 2 | 2 ● | | |
| | 緩和ケア論Ⅲ | 1・2年次 | 2 | 2 ● | | |
| | 緩和ケア論Ⅳ | 1・2年次 | 2 | 2 ● | | |
| 実践課題実習 | | 1・2年次 | 2 | 2 | | |
| 特別研究 科目 | 特別研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ | 看護研究コース 10単位 専門看護師コース 12単位 | 2年次 | 10 | — | |
| | | | 2年次 | 10 | — | |
| | | | 1・2年次 | — | 12 | |

各コースの学習過程



18. 看護学専攻 指導教員（教授等）の連絡先一覧（平成28年5月現在）

| 教員氏名 | 教育・研究内容 | 内線番号 | FAX番号 | E-mail |
|------------------------|---|------|-------|-----------|
| はら だ ち づる 原 田 千 鶴 | 看護専門職の人的資源の育成・職場適応に関する研究に取り組んでいる。 | 5035 | 5035 | charada |
| きよ むら のり こ 清 村 紀 子 | 看護形態機能学，救急看護学，クリティカルケア看護学を専門領域とする。主に，①救急看護・クリティカルケア看護が対象とする重症患者に提供するケア技術のエビデンスの探求，②看護形態機能学に関する教育方法論の開発，③看護に活かすフィジカルアセスメントの枠組み構築，などの教育・研究に取り組んでいる。現在は，概日リズムに着目した急性期意識障害患者に対する看護ケアプログラムの開発を進めている。 | 5032 | 5032 | kmmnoriko |
| すぎ た さとる 杉 田 聡 | 健康や病いに関わる事象を医療社会学的に分析する。病者役割，医療者－患者関係など病者や患者を対象とした研究や，保健医療制度に関する研究，ジェンダーやセクシュアリティといったLGBTに関わる研究の他，医療倫理、保健医療史の研究を行っている。 | 5033 | — | ssugita |
| てら まち よし こ 寺 町 芳 子 | がん看護や在宅看護に関する理論や研究に基づく，看護実践能力の開発や方法論の構築，地域連携について探求している。がん看護専門看護師教育課程を担当している。 | 5054 | 5054 | teramach |
| いの うえ りょう 井 上 亮 | 講義は疾病論（内科・外科）の講義を担当している。また，脳神経外科専門医として，脳卒中を中心とした中枢神経系疾患の教育も重点的に行っている。研究は，分子生物学的手法を用いて，基礎的・臨床的な悪性脳腫瘍の遺伝子解析を行っている。 | 5051 | 5051 | ryo |
| あな い たか のぶ 穴 井 孝 信 | 母子保健学が専門。疫学調査による低出生体重児の原因及び対策について調査中。骨粗鬆症，腹圧性尿失禁の疫学的調査も行っている。 | 5071 | 5071 | anaita |
| すえ ひろ り え 末 弘 理 恵 | クリティカルケアを必要とする成人期から老年期の患者やその家族を支援する看護方法を探究する。特に，ICUおよび手術室における看護，周手術期の看護に関する研究に取り組んでいる。 | 5053 | 5053 | suehiror |
| みず たに さち こ 水 谷 幸 子 | 助産師の「わざ」や「身体知」といった助産技術の解明，伝承方法を専門に，産期看護，性・生殖に関する看護について研究をすすめている。 | 5072 | 5072 | smizutan |
| かわ むら な み こ 河 村 奈美子 | 発達段階各期における精神看護について研究を行っている。特にコミュニケーションの発展やそれを導く看護の役割について探求している。 | 5074 | 5074 | nkawamura |
| い で ち え こ 井 手 知恵子 | 地域看護活動，特に公衆衛生看護活動における看護実践能力の開発と方法論の構築，及び地域看護管理の理論と方法論の開発について探求している。 | 5094 | 5094 | chide |
| し が たずよ 志 賀 たずよ | 地区を単位とした地域看護活動方法に関する研究。予防的看護活動の理論と方法論，看護基礎教育における地域看護学教育について探求中。 | 5092 | 5092 | t-siga |
| み え の えい こ 三重野 英 子 | 高齢者とその家族の健康を支援するための理論や看護方法を探究する。認知症高齢者の看護，高齢者への看護アセスメント技術，生活援助技術をテーマとした研究をすすめている。 | 5093 | 5093 | eikomi |
| はま ぐち かず ゆき 濱 口 和 之 | 糖尿病などの慢性疾患が高齢者に及ぼす影響と生活・疾病管理について，看護・医療の面から探求する。 | 5091 | 5091 | khamaguc |

- (注) 1. 出願を希望するものは，あらかじめ志望する指導教員と相談の上，志望する専攻コースを定めて出願してください。（第2志望まで出願する者は，第2志望の指導教員とも必ず相談してください。）
2. 本学はダイヤルイン方式となっています。したがって，市外から電話をする場合は市外局番（097）及び局番（586）の後に内線番号をダイヤルすれば，担当教員と直接通話ができます。
3. E-mailはドメイン名以下（@oita-u.ac.jp）を省略して表示しています。

共 通 事 項

共 通 事 項

1. 障がいのある者等の事前相談について

障がいを有する等、受験上特別な措置及び修学上特別の配慮を必要とする可能性がある入学志願者については、次の事項を記載した相談申請書（様式任意）に医師の診断書を添えて下記期日までに本学学生支援部入試課に提出してください。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| ・障がいの種類・程度 | ・受験の際に特別な配慮を希望する事項 |
| ・修学の際に特別な配慮を希望する事項 | ・日常生活の状況及びその他参考となる事項 |

第1次募集 平成28年6月24日（金）まで

第2次募集 平成28年8月19日（金）まで

第3次募集 平成29年1月20日（金）まで

2. 合格者発表

第1次募集 平成28年8月9日（火）10時

第2次募集 平成28年11月4日（金）10時

第3次募集 平成29年3月20日（月）10時

大分大学且野原キャンパス教養教育棟前及び挾間キャンパス管理棟玄関前に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には郵送により通知します。

また、大分大学ホームページ（<http://www.oita-u.ac.jp/>）にも合格者受験番号を掲載します。

なお、電話による合否の問い合わせには一切お応えできません。

3. 入学手続

入学手続の詳細については、合格通知とともに送付する「入学手続のご案内」によりお知らせいたします。

なお、入学手続日に入学手続をしなかった者は、入学辞退者として取り扱います。

4. 修了の要件

修士課程の修了の要件は、大学院に2年以上在学し、医科学専攻はP.21、看護学専攻はP.39の授業科目について30単位（がん看護専門看護師の認定を希望する者は32単位）以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者としてします。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとします。

5. 学位の授与

修士課程医科学専攻を修了した者には、修士（医科学）の学位を授与します。

修士課程看護学専攻を修了した者には、修士（看護学）の学位を授与します。

6. 入学料及び授業料

入学料 282,000円

授業料（年額） 535,800円（前期分 267,900円 後期分 267,900円）

注1 入学料及び授業料については、免除・徴収猶予の制度があります。詳細については学生支援課奨学支援グループ（TEL 097-554-7386）へお問い合わせください。

注2 授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に、後期分も合わせて1年分の納付もすることができます。

注3 **国費外国人留学生については、入学料・授業料を納付する必要はありません。**

注4 入学料及び授業料は改定の可能性があります。

なお、在学中に授業料改定が行われた場合には、新授業料が適用されます。

注5 既納の入学料は返還できません。

7. 奨学金制度

日本学生支援機構の奨学金制度があり、本人の申請により貸与が認められた場合の貸与月額は、次のとおりです。

| | |
|----------------|---|
| 大学院第一種奨学金（無利子） | 月額 50,000円又は88,000円 |
| 大学院第二種奨学金（有利子） | 月額 50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円から選択 |

8. 大分大学入学料・授業料奨学融資制度

入学料や授業料の融資を大学が指定する金融機関から受けた方の在学中の利息を大学が負担する制度があります。日本人学生が対象です。詳細は学生支援課奨学支援グループ(TEL 097-554-7386)までお問い合わせください。

9. 学生教育研究災害傷害保険制度

この保険は、大学院在学中の実験・実習等の正課、学校行事又は課外活動中及び通学中に不慮の事故により被った負傷、死亡等の災害に対する補償制度であり、保険料は2年間分で1,790円です。

10. 問い合わせ先

大分大学学生支援部入試課

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

TEL 097-554-6701

11. 大分大学位置図

大分大学医学部（^{はさま}挟間キャンパス） ※試験会場

所在地 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地

T E L 097-586-5540, 5541

交通アクセス 〈バス利用〉

大分バス 中央通り〔トキハ前2番のりば〕又はJR大分駅府内中央口（北口）
〔大分駅前4番のりば〕から

○「大学病院」行き又は「大学病院」経由を利用（約40分）、「大学病院」下車
（詳細は時刻表で確認してください。）

大分大学学生支援部入試課（^{だんののはる}巨野原キャンパス） ※入学志願書提出先

所在地 大分市大字巨野原700番地

T E L 097-554-6701

交通アクセス 〈JR利用〉

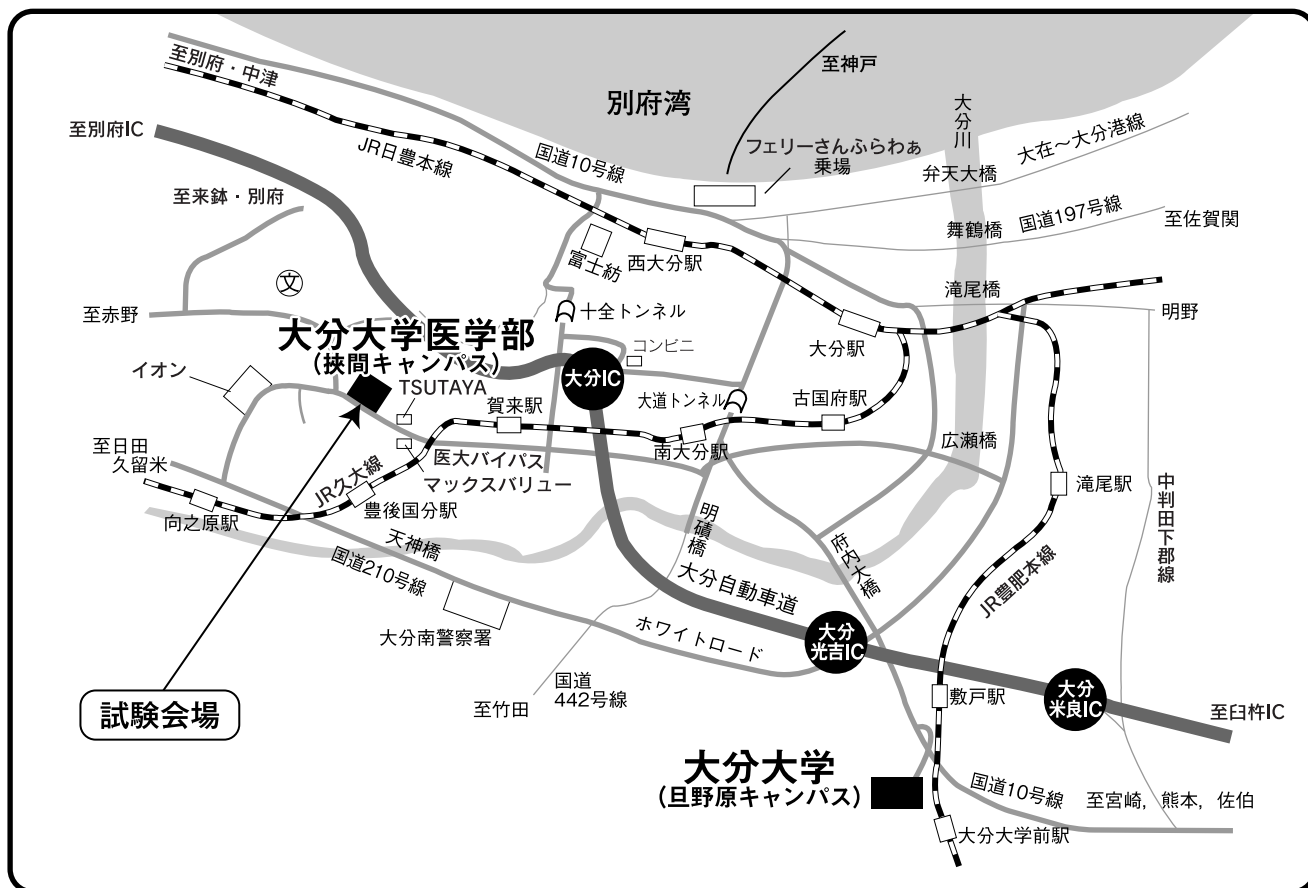
JR豊肥本線「大分大学前駅」下車（大分駅より約12分）、徒歩約10分
〈バス利用〉

大分バス中央通り〔トキハ前1番のりば〕又はJR大分駅府内中央口（北口）
〔大分駅前3番又は4番のりば〕から

○「大南団地（^{だいなん}高江ニュータウン）」行きを利用（約40分）、「大分大学」又は
「大分大学正門」下車

○「^{へつぎ}戸次、^{うすき}白杵、^{さいき}佐伯」行きを利用（約40分）、「大分大学入口」下車、
徒歩約10分

（詳細は時刻表で確認してください。）



入学試験に関する問い合わせ先

〒870-1192 おおいたし おおあざだんのはる 大分市大字巨野原700番地

大分大学学生支援部入試課

TEL 097-554-6701

なお、この募集要項の内容は

ホームページ (<http://www.oita-u.ac.jp/>) にも掲載しています。